

小学校国語

令和8年度

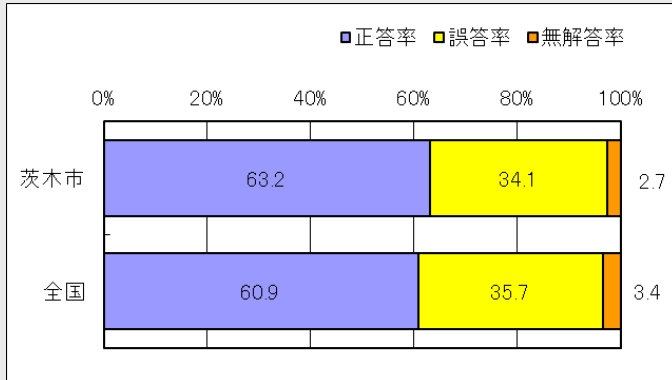
全国学力・学習状況調査

学力調査結果報告

正答率比較

平均正答率は、全国を2.3ポイント上回った

令和8年度 小学校国語 正答率等比較

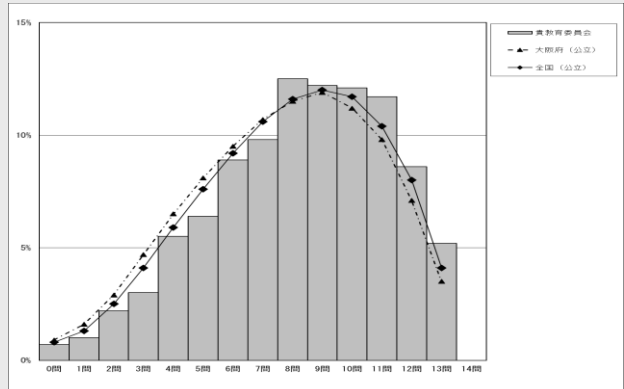


- ◆ 全国の平均正答率が 60.9%であるのに対し、茨木市では 63.2%で、全国を 2.3 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 1.6 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.7 ポイント低い。

正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である

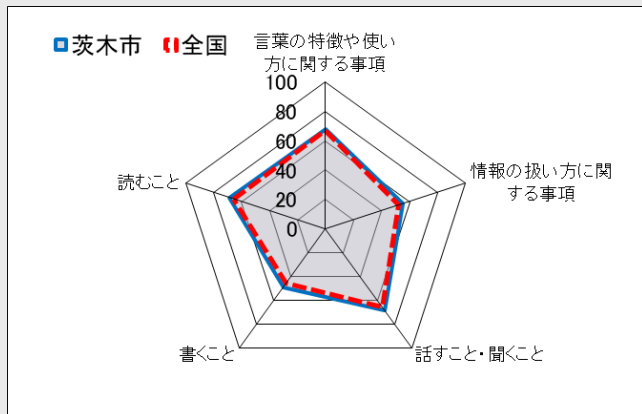
令和8年度 小学校国語 正答数分布グラフ



- ◆ 全国は9問、茨木市は8問正解の児童の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0～5問正解)の生徒の割合は 18.8%である。(内 20%以下(0～2問正解)の生徒の割合は 3.9%)
- ◆ 正答率 80%以上(11～13問正解)の生徒の割合は 25.5%である。

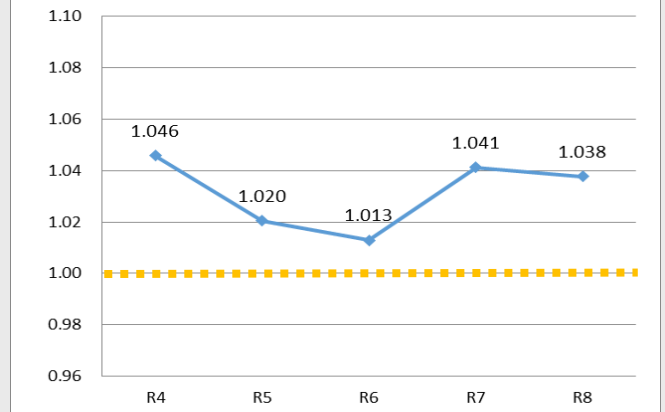
領域別

令和8年度 小学校国語 レーダーチャート



正答率経年比較

過去 5 年の正答率の推移(対全国比)



課題があった設問

〇夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書く (正答率 34.9%)

2 花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

四 花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、口に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 〇【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
- 〇ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎっこ(「 」)でくくること。
- 〇ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
- 〇百四十字以内にまとめて書くこと。

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

正答例)「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。

正答の条件 ※次の条件を満たして解答している。

- ① 【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。
 - a 本の題名
 - b 本文の一部の内容
- ② 抜き出した部分をかぎ（「 」）でくくっている。
- ③ 涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。
- ④ 140 字以内で書いている。

解答類型	反応率 (%)	正答
条件①a、b の両方、②、③、④を満たしているもの	29.3	◎
条件①、②a、b の両方は満たしているが、条件③は満たしていないもの	5.6	○
条件①a、b の両方、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	2.7	
条件①a、②、③は満たしているが、条件①b は満たしていないもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	5.4	
条件①b、②、③は満たしているが、条件①a は満たしていないもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	5.2	
条件③は満たしているが、条件①a、b、②は満たしていないもの * 条件④を満たしているかどうかは不問とする。	32.5	
上記以外の解答	15.6	
無解答	3.8	

【この問題で求められている力】

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力

☆【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出してくわしく書き直す設問。無解答率は比較的少なかった。

→教科書だけでなく、多くの本や書物から、情報を把握し、書いてあることを自分でまとめたり、まとめた文を詳しくするなどの活動を意識的に取り入れていくことでこれらの力を伸ばすことができる。

【国語についての今後の指導のポイントとして】

児童によっては、引用して書く必要があると考えず、本などに書いてあることを自分の考えのように書いたり、自分が考えたことだけを書いたりする場合があると考えられる。こうした児童に対しては、引用することの意義を確かめる必要がある。

学級全体で引用する目的や引用するときに大事なことについてまとめ、児童が適宜、振り返ることができるように手立てを講じることが大切である。

また、引用することはできるが、自分の考えを書くことができない児童もいると考えられる。こうした児童に対しては、「なぜ、その部分を引用しようと思ったのか。」や「自分が何を伝えるために引用する部分を選んだのか。」など、自分が書こうとしていることを友達と伝え合い、自分の考えを明確にしたり振り返ったりする場を設けることなどが考えられる。その際、第5学年及び第6学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)ウの指導と関連付け、事実を客観的に書くことや、事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことを指導することが考えられる。加えて、第3学年及び第4学年で学習した「引用の仕方や出典の示し方」などを想起させることで、指導の効果を高めることが考えられる。